



音楽プロデューサー 本間 昭光さん



アーティストの個性生かし名曲に

今のJポップ界を代表する音楽プロデューサーの一人だ。ポルノグラフィティの「アポロ」「サウダージ」「アゲハ蝶」といったヒット曲はすべて本間昭光の作曲。編曲プロデューサー、いさものがかり、ももいろクローバーZ、JUDY AND MICA、広瀬香美、浜崎あゆみ……と手がけたアーティストは数知れない。

「アマチニアバンドでキーボードを弾いていた高校時代から裏方志望でした。光り輝く人を裏で支える音の職人になりたいかった」。関西在住だったが、プロデューサーの松任谷正隆が主宰する東京の音楽学校に入り、毎週日曜に大阪から夜行バスで通学した。松任谷に認められて東京に移り、横浜歌之のパンクなどを務めながら頭角を現した。1999年ポルノグラフィティを担当する際に、初

音の職人 天才じゃない



「本間祭2015」でミュージカル「花より男子」の出演者と共演 (左のピアノ奏者が本間、昨年11月27日、NHKホール)

めて作曲に手を広げた。調子が編曲とすれば、作曲は素材選びに当たります。30代半ばまで編曲ばかりしていたから、作曲家のデモテープを聴いた瞬間に売れる、売れないが分かるようになっていた。何千曲も編曲して分析してきた結果、

自分は作曲の天才にはなれないが、職人にはなれるという手応えがありました。いさものがかりには2009年から関わっている。ある日、後が大ヒットする「ありがとう」をメンバーの水野良樹が作ってもって来た。「ありがとう」のメ

ほんま・あきみつ 1964年大阪府生まれ。88年松任谷正隆の音楽学校に入り、松任谷に師事。90年代から編曲やプロデューサーを手がける。ロディーが印象的でした。ね。編曲者としては、そのドレミファソの流れを生かす印象的なイントロを作らなくてはと考えた。名曲にはイントロが付き物と思っていますから。

この曲のサビに入るストリングス(弦)の美しさに、本間流アレンジの巧みさが表れている。「音楽理論上、メロディーとストリングスのラインがぶつかる部分があるんです。どうするか悩んだとき、かつて似たケースで橋原君と話し合ったのを思い出しました」

「強いメロディーに対し、強いストリングスラインを付けたんだから、それでいいんだよ」と答えた。「彼はきれいな中にアンバランスな汚しを入られる天才。僕はそれを現場で学んで経験値にして、職人技として「ありがとう」に生かしたのです」

編曲家として心がけていたのは意外性だ。「僕はラテンロックが好き。それが編曲に色濃く出たのが広瀬香美さんの『Promises』やポルノグラフィティの『サウダージ』、『アゲハ蝶』で、本間といえはこんな感じとイメージがついてしまった。僕は職人ですから、こんな引き出しもあつたのかと驚かされる音楽も作ってみたいのです」

あたたかな人柄の力

もともとミュージカルが好きだったが、本格的に手がけるのは初めてという。ここはシャシーに、キャラクターの音で、ちょっとアレスリー風……。演出家の注文中に職人として次々と伝え、それらしい音楽を紡いでいる。「会場を出たときに口ずさんでもらえるくらい強い印象の残るメロディーを作りたいが、つたて話してはくれたが、1月に見た東京・シアタークリエ公演の歌の記憶が、筆者の頭にはまだ何曲も残っている。(編集委員 吉田俊宏)